

4. 動揺しやすい生徒に向けて

- ・ねらい 葛藤による動揺を体験させることにより、内的活動を促す。
また、人の意見を聞きながらも、自分の意見をしっかり持てるようにする。
- ・内容 モラルジレンマの資料を用い、立場を決め、議論をすることにより、葛藤による動揺を体験させる。その後、自分の考えを理由まで含めて考え、発表する。
- ・用意するもの ジレンマ資料 ワークシート

・展開

	活動内容	指導上の留意点
P	・実態把握	・葛藤が起こったとき子どもがどういう反応をするのかを捉えておく。
D	・ジレンマを起こす場面まで資料を読む。 ・4～6人グループを作る。 ・ <u>グループを2つに分けて、立場を決めて議論する。</u>	・モラルジレンマの資料はたくさんあるが、単なるディベートで終わらずに、内面に働きかけるような資料を選択する。 ・グループ分けは、実態に応じて行う。 ・自分の意見とは違った立場になってもよいことを伝えておく。
S	・役ではなく、自分の意見とその理由をワークシートに記入し、グループ内で発表する。 ・資料の結末を読む。 ・振り返って各自で感想を書く。	・各グループのそれぞれの立場の生徒を集めて、場面設定をよく説明し、役になりきれるよう援助する。 ・議論が続かないようであれば、すぐに指導者に知らせるように伝えておき、指導者が援助する。 ・相手の意見が自分の意見と違って、尊重し合えるよう配慮する。 ・どちらがよい意見なのかを特定せずに終わりたい。 ・感想から実態を把握する。(P)



アレンジ例（下線部分）

ロールプレイをさせると、より内的活動を促すことが可能である。